

年間第16主日の説教

金 大烈 神父 2011年7月17日(日)

《人生の宿題 ～愛を探し、自分のものにする～》

時々、私にこのようなことを質問する人がいます。

「神様は、全知全能で愛そのものであると聞きました。それなのに、なぜこの世の中にはいろいろな苦痛が存在するのでしょうか。なぜ悪がたくさん見られるのでしょうか。神様が善い方で、何でもできる方ならば、この世の中から悪を無くし、人間が苦痛を感じることを全て無くしてくださればよいと思います。しかしこの世を見ると善よりも悪の方があふれている感じがします。なぜなのでしょう。」

皆様もこのような疑問を持ったことはありませんか。もし、皆様がこのような質問を受けたら、どのように答えますか。「神様でないから分らない」と答えるのでしょうか。

答えは、今日の福音(マタイ 13:24 - 43)の毒麦のたとえ話の中にあります。

人間はこの世の中に生きている限り、善と悪が共存するのを見なければなりません。そして、「これは悪だ」と責める人自身の中にも悪が存在することを認めなければなりません。つまり、人間が自分の中の悪を認めないで、世の中の悪ばかり批判しようとする限り、この世の中から悪は絶対に無くならないのです。

もし、この世の中から悪が無くなり、全ての人が天使のような生き方をすることができれば、それはこの世ではなく、天国と言えるでしょう。この世というのは、『悪と闘い、いろいろな難しさを乗り越えて、善の美しさを作りだして述べ伝える世界』です。そして、『与えられた使命を果たし、約束されたみ国に入るための場所』なのです。人生とは、与えられた多くの使命を、全力を尽くして果たそうとする旅なのです。

更にもう一つ私たちが忘れてはいけないことがあります。それは、いろいろな苦勞をしながらその難しさを乗り越えた時こそ、^{まこと}真の人生の意味、人間としての成熟、人間らしさができるということです。

この世が終わる時まで、悪は必ず存在すると思います。その悪に対する私たちの態度が問題なのです。どうすれば悪に負けずに上手く生きられるか、それに取り組むことが人生の課題だと思います。

人生の苦難を乗り越える助けとなるように、あるシスターが書いたきれいな詩を急いで訳してみました。ゆっくり読みますので、皆様も一緒に考えてみてください。

他人のせいだと思いました

シスター 李 海仁

訳 金 大烈神父

私の心が渴いている時には
私はいつも他人をみました。
他人が自分を乾かせると思ったからです。
しかし、今になってみると、私が渴いて冷たくなったのは
他人の為ではなく、
自分の中に愛がなかったからでした。

私の心が不安に陥る時には、
私はいつも他人を見ました。
他人が私を不安にさせると思ったからです。
しかし、今になってみると、私が不安で苦しいのは、
他人のためではなく、
自分の中に愛がなかったからでした。

私の心が寂しくなる時には、
私はいつも他人を見ました。
他人が自分を見捨てたと思ったからです。
しかし、今になってみると、私が寂しくて物足りない心になったのは、
他人のためではなく、
自分の中に愛がなかったからでした。

私の心が不満で満ちた時には
私はいつも他人を見ました。
他人が自分を満足させないと思ったからです。
しかし、今になってみると、自分にたまる不平や不満は、
他人のためではなく、
自分の中に愛がなかったからでした。

私の心に喜びがない時には
私はいつも他人を見ました。
他人が私の喜びを奪っていると思ったからです。
しかし、今になってみると、私に喜びと平和がないのは、
他人のためではなく、

自分の中に愛がなかったからでした。

私の心から希望が消えてしまう時には

私はいつも他人を見ました。

他人が私を落ち込ませると思ったからです。

しかし、今になってみると、私が落胆し、挫折するのは

他人のためではなく、

自分の中に愛がなかったからでした。

私に起こるすべての否定的な事は

自分の心に愛がなかったからであるのを

気づいた今日、

私は

自分の心の畑に、

愛という名の種を一粒、蒔いてみます。

今日私たちが考えるべきことは、この詩の最後の一節です。「自分の心の畑に、愛という名の種を一粒蒔く」ことです。

他人のせい、環境のせい、周りの全てのもののせいにして生きていたのでは、絶対に求めるものは得られません。

このシスターは、韓国では有名な詩人です。70歳近い年齢の方で、この詩は最近書かれた詩ですから、これまでの彼女の反省と信仰の告白が表れていると言えるでしょう。“よく考えてみると、結局自分の心の中に愛がなかった”という悟りの詩です。

私も、愛が存在すれば私たちがこのような辛い気持ちになることはないと思います。

愛を探し、自分のものにすることは、人生の苦難を乗り越えるための宿題だと思います。

ありがとうございました。